

## 第4回池田町学校あり方検討委員会 会議録

日 時:令和8年2月3日(火)10:00～11:40

場 所:池田町役場 3A会議室

出席者:検討委員会委員 23名

池田町教育長、事務局 5名

### 1 開会

皆さま、おはようございます。定刻になりましたので、只今から第4回学校あり方検討委員会を開催いたします。はじめに本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様、過不足ございませんでしょうか。本日は過半数の出席があったため、今回は承認されたものとして報告させていただきます。本日は、大会にあたり、第4回の検討委員会までの経緯、本日の内容を含めまして、教育長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

### 2 教育長挨拶

失礼します。本当に寒い中、今日はありがとうございます。第4回ということで、今年度最後の検討委員会を開かせていただきたいと思います。第3回の検討委員会でたたき台についてご審議いただき、ありがとうございます。それを受けまして、ホームページで公開し、ご意見を募集しました。なかなかご意見があまりいただけない状況でしたが、1月の14日から、各小学校区でミーティングという形でご説明させていただき、ご意見をいただきました。校区ごとにご意見をいただいております。資料については担当から説明しますが、目を通していただければと思います。以前の会でも、2クラスから4クラス、3クラスでという基本方針をお話しさせていただきましたが、アンケートを取ったところ、1クラスに満たないというご意見もいただきました。そこで、小規模特認校という制度についてご意見をいただきました。他市町でも事例があるということで、このことについても一度議論に乗せてほしいというご意見がありましたので、今日は小規模特認校制度についてもご説明させていただきます。今日は皆さんから自由に、この基本方針を見て、ご議論いただきたいと思います。今日は前半で、小規模特認校についてご説明させていただき、その後、以前のたたき台で触れていなかった地域との連携、幼稚園や保育園との関係、今後の教育環境の整備という3つの点について議論していただきたいと思います。資料2は丸いグラフの資料ですが、前回のたたき台です。今回再掲させていただいておりますが、たたき台の2ページで、クラス数の話、クラス数の推移、生徒数の予想については、去年の4月の段階で作りましたので、年末でデータが更新されています。数字のところだけ新しいものに更新した改訂版という形になっております。他のところは変わっておりませんので、よろしくお願いいたします。今日は2点、あり方ミーティングの結果と今後のあり方について、ご議論いただけるとありがたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。それでは次第の方に従い進めさせていただきます。3番の議事に入りますが、これより進行の方、委員長の方をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

### 3 議事

(委員長)

おはようございます。ご指名によりまして、議事進行させていただきますので、ご協力をお願いいたします。議事の1、第2回学校あり方ミーティングの意見からということで、会議録と小規模特認校について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1をお願いいたします。あり方ミーティングを5回にわたり開催させていただきました。こちらで出た意見を読ませていただきます。1ページは1月14日、温地小学校で開かれたものです。地域住民の意見として、主な意見は、養基小学校との兼ね合いもあるので、しっかり協議をしてほしいということでした。2番目は、2校体制の方針は人数から決めているのか、学校の体育館は防災面からも必要で防災拠点は残るのかということで、防災面、防災拠点のお話は、たくさんのご意見がありました。地域住民の意見の一番下には、池田町でも質の高い保育をしてほしい、若い女性は教育に関心があるため、池田町は教育の町とすることで移り住む人もいるのではないかとのご意見がありました。次に2ページをお願いいたします。1月15日、池田小学校で開催をいたしました。

地域住民の意見としては、今後2校体制ということで、温知小学校は残る可能性が高いと思う。イベントを温知小でやろうと思うと、駐車場や道路が狭いのではないかと、池田小学校の子どもは温知小学校に行くことになるのかという意見がありました。また、議事録等をホームページで確認したが1クラスが良いという少数意見も大切にしてほしい。小規模特認校も流行っているので、これについても考えてみてほしいとありました。小規模特認校についての意見は池田小学校だけでなく、他の学校区からも意見が出ております。また、地域住民の意見として、池田小学校区上田地区は池田小学校ができてから世帯数が増えてきた。今後の人口予測は誰にもわからないということがありました。また、地域住民の声の一番下には、上田は人口が増えている。保護者は転入理由を小学校が近いからということで、池田小学校を残してほしいということもありました。次に3ページです。

1月16日、八幡小学校で開催いたしました。地域住民の意見として一番上には、跡地利用について民族資料館や歴史資料館など他から来てもらえるような施設にしてほしい。すぐ下には、令和13年に宮地小学校だけ統合してみてもどうかという意見がありました。また、行政側からの統合はしない方がいいという意見もありました。揖斐川町の先生をされていた方なので、よく知っているということで、住民から依頼があって進めるのは良いが、行政主導だと町民の反発や要望が多いという意見がありました。すぐ下には、特別支援学級が13学級から16学級と多くなってきているが、2校で入れるのか、3校でも良いのではとありました。この2校ではなく3校でも良いのではという意見は他の学校からも出ております。次に4ページをお願いします。1月20日、宮地小学校で開催しました。地域住民の意見として一番上には、たたき台の案は令和13年度で1区切りということだが、一度に一つに統合した方が良いのではないかと。二つにするにしても、それなりにメンテナンス等で費用がかかるということでした。すぐ下の内容としては、宮地小学校をなくすことは宮地小学校以外の人の意見で決めるのではなく、地元の意見をもっと聞いてほしいということで、小学校規模で開催する話し合いではなく、もっと小さい単位の会合に来てほしいという意見がありました。下の方の保護者の意見の一番上には、前回のあり方ミーティングにというところからの3行目に、小学校同士の統合でも宮地の子は少ないので、大きな学校の子と一緒にすると小さくな

って萎縮してしまうのではないかという心配の声がありました。すぐ下には、全国でも統合の話があり、そういう流れはわかるという意見がありました。施設整備費やスクールバスにもお金がかかるということで、宮地小学校では自然教育、総合教育ができるということです。小さい学校だから良い悪いではない、子供を中心に地域のことも一緒に考えてほしいという意見がありました。宮地小学校は他の学校より保護者の参加も多く、保護者の意見が多く聞かれました。次に 5 ページです。1 月 27 日、養基公民館で開催しました地域住民の意見です。一番上には、説明を聞くと 2 校となる答えが出ているように思う。それについては何も言わないが、防災拠点としては残してほしい。総合的な学習池田町は良いとのことでした。次にその下には、学校は 2 校に納めるしかないと思う。少人数では競争することもできないしトラブルが解決できないので、2 校になるのはやむを得ないのではないかという意見がありました。その下には、教員の負担は子供たちにも影響が出る。子供と先生の双方に負担にならないようにという意見がありました。地域連携センターや総合的な学習で地域が関わっていくのは良いということで、今後の地域との協働を考えていく意見がありました。あり方ミーティングの結果は以上になります。

引き続き 6 ページをご覧ください。小規模特認校について説明をさせていただきます。小規模特認校は小規模の特色を生かして、市町村の他の学校からでも通うことができる制度です。本来住所によって学校が指定されるのですが、特認校については他のところからも通えるという点と、カリキュラムが独自であるという点が異なります。独自のカリキュラムを組み、特色を持たせているということです。下に豊田市の例が書いてありますが、募集人員があつたり、滝脇小学校みたいに独自のカリキュラムを含んだりしています。先日、豊田市の教育委員会の方に電話をして、いろいろお聞きしました。大きく 3 点お聞きしたのですが、現在 20 校が特認校でやっているけれど、そのうちの 18 校を募集しているとのことでした。希望募集しているところは秋ぐらいに見学会などを行い、希望する人は見学をして、校長と面談をして、入学が許可されるという流れだそうです。教員数についてもお聞きしました。例えば、中金小学校だと 4 クラスで教員は本来 5 人、校長を入れても 8 人か 9 人なのですが、教員は 11 人いるそうです。豊田市の方でお金を出して教員を雇っているということです。募集人員についてどうやって決めているのかを聞きました。募集人員は基本的に複式学級を解消しない範囲でやっているということです。複式学級というのは、35 人まで 1 学級という話をしたと思うのですが、逆に 2 学年合わせて 1 年生を含む場合は 8 人、1 年生以外は 16 人を超えると他の学年同士で 1 クラスというふうになります。豊田市の 20 校は全て複式学級がある学校だということです。複式学級を解消することは小規模特認校の目的ではないということで、認めていないという形でやっているということです。募集人員に対して多く来てしまったらどうするのかを聞きましたが、そんなことはないだろうとのことでした。応募自体がほとんどないということでした。何人かという内訳は教えてもらえませんでした。今は募集がない学校もあるとのことでした。そういった現状があるということです。

アンケートの結果についてですが、学校ごとのデータがあつた方が良いというご意見がありましたので、参考データになります。7 ページが子供たちの意識についてのデータで、紫のところが見にくいのですが、3 クラス以上を希望している割合です。温知小学校であれば 72%、八幡小学校であれば 15%、池田小学校であれば 24%、宮地小学校であれば 91%が、3 クラス以上が良いと回答しています。学級規模、学校の規模と関係があるのかと思います。次の 8 ページをご覧ください。学校規模に關係があるのかと思ひ、小学校だけで複数学級がある子たちと、そうではなくて単学級で生活している子達で分けて割合

を出しました。単学級で過ごしている子は 55%が単学級が良いと答え、43%ぐらいが 2 クラス以上が良いと答えているのに対して、2 クラス以上で生活している子たちは 91%以上が 2 クラス以上が良いと回答しているという現状があります。9 ページをご覧ください。ここに載せているのが各学校の学級数です。学校の適正規模は文科省で 12 から 18 学級とされているので、これを見ると温地小学校以外は適正規模以下ということが分かります。次のページをご覧ください。10 ページは保護者から聞いた、今感じている自分の学校の学級の規模、子供の数がもっと多い方がいいか、今ぐらいがいいか、もっと少ない方がいいかというアンケートの結果です。学校ごとに聞くと、子供の数が多学校の保護者の方が、子供の数がちょうど良いと考えていることが分かります。次のページをご覧ください。11 ページは保護者や地域の方を対象とした望ましいクラス数の結果です。学校ごとに、3 クラス以上を望む数は全体で 37%、温知小学校で 56%以上、八幡小学校で 30%、宮地小学校で 28%、池田小学校で 28%、養基小学校で 23%が 3 クラス以上を希望しているということです。宮地小学校は子供は 1 クラスが良いというのが 6 割以上でしたが、保護者は 60%以上が 2 クラス以上が良いと考えているということです。

(委員長)

ありがとうございます。皆さんからご意見を伺いたいところですが、印象としては、あり方ミーティングの会議録があって、小規模特認校の話があって、アンケートという流れですが、あり方ミーティングの会議録とアンケート結果を受けて小規模特認校の話をする方が自然かと思えます。あり方ミーティングの会議録であったり、アンケート結果を受けて皆様からご意見ご質問などございますでしょうか？資料のまとめとしては、今の基本方針について、概ね受け止めた上でご意見があったというように伺っていましたが、資料としては色々な意見が書かれてしまっているの、色々な意見が出たようなまとめになっていると思うんですね。基本方針については、ご理解があったということでよろしいでしょうか？小学校を残してほしいという話がミーティングではメインになり、2 から 3 ではだめじゃないかという意見については、1 クラスの意見もあるので、残してほしいという意見も出ています。大きな流れとしては、2 校にまとめていくところが前提として受け止められていて、その大きな方針を前提にして、小規模特認校という手もあるというご意見ということでしょうか？小規模特認校については、事務局の方針が見えなかったのですが、どのように理解されて、どう受け止められたのかご発言いただけますでしょうか？

(教育長)

1 月の会議で、前から小規模特認校のことは承知しておりました。県への問い合わせが昨日一昨日というレベルで回答がありましたが、学校を決めていくのは市町村教育委員会であるとのことでした。学校のことに関して、小規模特認校を作るということについては、県から何か言うことはないけれども、教員の配置は今まで通りであるという回答が出ました。豊田市のように教員をたくさんくださいということはだめだという話でした。

(委員長)

小規模特認校の資料として豊田市の例が妥当だったのか疑問に思えます。日本で一番お金持ちの自治体なので、行政が面倒なことをしたくないからお金を出しているという話です。豊田市の例は池田町の参考にはならないと思います。県内にも事例があるので、そちらの方がどうなのかということだと思います。

(教育長)

西濃地区には 1 つもございません。瑞穂にはありますが、今後統合も考えていくということで、小規模特

認校については取りやめる方向でいくというのが瑞穂の話です。教育的な要素をしっかりと含めていければ良いのですが、現実としては統廃合の先送りをしているという評価もあるのかなと思っていますので、むやみに使うものではないと思います。

(委員長)

皆さま、ぜひ集まりいただいておりますので、基本方針についてご意見をいただければと思います。地域の方としては地域に学校、特に学校の施設が残ってほしいという思いが強いという受け止めでよろしいでしょうか？ 次の議題は時間を要すると伺っておりますので、全部まとめて最後に皆さんからご意見をいただく形でも良いかと思えます。続けて地域との連携について、ご説明をお願いします。

(教育長)

地域から小学校がなくなる可能性が出てくるということで、地域社会での小学校が果たしてきた役割については十分認識しながら、どうしていくかということを考えていきたいと思えます。基本方針の中に、現在設置されている各学校の学校運営協議会の充実を図ると書いてございますけれども、学校の運営に対して地域からご意見をいただき、地域の応援団になっていただくということで、学校評議員制度を発展した形で、区長さんや公民館長の意見を聞いているわけですが、もう少し発展した形の地域学校協働活動本部を設置するというのが望ましいという話が出ております。地域と学校を繋ぐ役目をこの本部が担っているもので、コーディネーターを配置するというものです。今まで学校支援というふうになりますと、地域の先生、田んぼづくりの先生だとか、いろいろなことで学校支援をしていただいたり、読み聞かせをやっていただいたりしてきましたが、もう少し発展させて、地域づくりに小学校も関与していく、地域ブランドづくりの学習とか、地域行事の参画だとか、地域人材の育成、地域を担っていく人材を育成していく、防災学習を地域とともにやっていく、そういうことをできるものを作っていくというのが地域学校協働活動です。小学校段階ではコーディネーターを5人配置することは難しいので、2校ということになって集約できた時には、地域のコーディネーターを学校に配置していきたい。地域学校共同活動本部を、新しく集約できれば各学校に設置させていただきたい。地域学校連携担当の支援員を学校と公民館に配置していきたいと思えます。公民館には館長さんと職員の方がいるので、そういう方と学校を結ぶような人を、支援員という形で配当していきたいと思えます。また、校内地域連携センターを各小学校区内に配置していきたいと考えております。また、地域の方が自由に入出りできるような場所を確保していきたい。小学校では畑をやっていただいたり、様々な形でご支援をいただいているわけですが、池田町という枠で物事を考えていきたいということで、総合的な学習の時間に地域学習などを取り入れ、小学校から中学校まで一貫して池田町に関わるような教育課程を編成していきたい。小学校ではふるさと池田の伝統ということで、地域全体のことをやっていこうと思えます。

(委員長)

地域との連携について、ご意見はいかがでしょうか？ 無いようですので、続けて子育て支援課、お願いいたします。

(事務局)

学校の方の基本方針が示されてまいりましたので、保育園につきましても、これに準じまして、基本方針の案を作成させていただきました。昨年11月20日に開催されました第3回学校あり方検討委員会におきまして、学校の方の四つの基本方針が示されました。保育園につきましても、基本、学校の方針に準じるということで進めてまいりましたので、今回、保育園の基本方針をまとめさせていただきましたので、

ご意見をお願いしたいと思います。資料には上段に学校の基本方針、その下段に保育園の基本方針案を記載しております。基本方針 1 につきましては、学校と同様に保育園においても統合して再編成をするということとさせていただきます。教育の観点から生徒数の減少を踏まえ、2校体制が望ましいため再編整備をするとしています。保育の観点からは少人数の園児が大人数の小学校に入学することへの不安や戸惑いの解消のためにも、保育園を統合して再編整備したいと考えております。基本方針 2 では学校では令和 13 年度までの条件整備が整った時点で 2 校体制とするとあります。保育園につきましても、令和 13 年度までの条件整備が整った時点で2園体制とすることとし、公立保育園 1 園と私立認定こども園、幼稚園とする、公立と私立という体制としたいと思っております。令和 13 年度までの期間ですが、下の表の公立保育園園児の推移の想定表をご覧くださいますと令和 13 年度は公立保育園に通園する園児が 147 人と見込んでおりますので、保育園 1 園とした場合でも施設規模において十分受入可能と推察しております。また令和 13 年度とした場合には、今年の 4 月に入園します 0 歳児が途中で転園が生じることとなります。この場合保護者への説明が必要ですし、秋の入園申し込み時には保育園の 1 園体制となる可能性について、保護者には説明が必要となってまいります。学校では現在の校舎を利用する方針ですが、保育園も同様にその1園を選定し利用したいと考えております。現存する公立保育園の規模、築年数、災害地域情報などを掲載しておりますが、園の選定にはこれらの条件を考慮し選定したいと考えております。園児の通園方法等につきましては、公立保育園の通園状況はもっぱら保護者による自動車送迎であります。学校ではスクールバスの活用がマストの状況ですが、保育園では自家用車が安全かつ円滑に送迎できる駐車場と道路整備についても検討を進めてまいります。基本方針3の義務教育学校については保育園は該当ありません。基本方針 4 の将来構想につきましては小学校では将来的に小学校 1 校と中学校 1 校体制の方針であります。保育園につきましては、さらに園児数の減少が予想されますので、公立保育園と私立保育園で統合の可能性についても今後検討とさせていただきますこととしました。次に今回、追加されました基本方針で、小学校の地域社会に果たす役割と連携についてですが、こちらも保育園も同様でありますので、学校とともに検討してまいります。跡地の利用につきましても学校と同様に地域の方々とともに保育園の跡地利用について検討していただくようお願いしておりますし、養基保育園につきましても、揖斐川町との議論を継続してまいりたいと思っております。

(委員長)

保育園の再編について、関係者の皆さんもいらしてくれれると思いますので、ぜひ意見をお願いします。小学校に合わせて、保育園の場合も公立は 1 園になるということで、2 園以上という形になるということですね。何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

(教育長)

ありがとうございます。7 ページのところへ戻っていただきまして、2 校体制で行くということで、跡地が出てくるけど、どうするんだという話ですが、7 ページのところへ書かせていただきました。小学校の跡地につきましても校舎、運動場、体育館、プールも一部あると言えはありますが、多機能に今も使っているため、今後防災拠点のあり方、地域の公民館との関係でどういうふうに使っていくのかということについては、ここで決定ということではないと思っておりますので、地域とあるいは町全体として特に防災という観点は町全体になりますので、そこら辺で一番は考えていきたいと思っております。今は小学校区に公民館が設置されております。この公民館のあり方というものについても、小学校が 2 校というようなことになったら公民館はどうしていくのか、あるいは、他の町では公民館をコミュニティーセンターとしてい

る動きもございます。そういうのこともあって、公民館についてもやはり一緒に考えていかなければいけないのではないだろうかということです。今は学校のあり方について基本方針についての説明で回らせていただいておりますけれども、これが来年度答申を出した後は、今後具体的に各地区でどういうふうに進めていくのかっていうことについては、行政のみでなく地域の人との協議の場をやはり持ちながら考えていかなければいけないのかなということを思っております。今は国全体で地域創生という観点がございます。学校をどういうふうな形で考えていくのかってことについても、当然その中に加わって考えていかなければいけないということで、ここで決めるのは方向性ですので、皆様がもっとこういう観点でどうだっというようなことを含めてご意見をいただけるとありがたいなと思います。

(委員長)

統合後の跡地利用についての方針を御説明いただきましたけれども、これについてもご質問ご意見ございますでしょうか？ 私も大垣市上石津町の跡地委託の評価委員をしていて、公募して様々な使っていただいています。池田町でやってももっとリアクションはあるのではないかと思います。

(教育長)

最後のページに資料3とございます。来年度に向けて教育委員が何を考えてるのかってこと、ちょっとご披露というかご説明をさせていただきます。資料一番最後のページに資料3という初見のものでございますけれども、今取り組んでいるもの、これから取り組んでいこうというものでございます。A、多くの児童生徒が関わることができるように、学校間連携をより進めてまいります。合同で体験活動する、移動するためのバスの交通手段の確保は予算措置をさせていただいております。学校提案により、学校同士が一緒になってやっていく、藤橋での研修を一緒にやるだとか、修学旅行を一緒に行くだとかっていうことが、校長の間から具体的に今提案が上がってきております。意見交流を通して総合的な学習の時間でいろんなことをしておりますけれども、それを町全体で総合的な学習の時間については、来年の委員会を設置して準備を設立につけて進めてまいります。オンライン環境の整備についても考えていかなければいけないだろうなと思っています。幼稚園保育園とこども園、それから小学校の連携について、架け橋プログラムを作ろうとしております。去年ぐらいから担当者が集まる会議を開いておまして、今年の最後の会議でプログラムの原案を出させていただきますけれども、小学校でいわゆる保育園を出たときには頑張れるよね、一緒に一生懸命やれるよね、リーダーなんだよ。それが小学一年生になると急にガクンということにならないように連続した形であってということでプログラムを作ろうというふうに考えております。園児は遊びを通して体力健康増進と社会性育成を育みます。小学校で授業の初めによく、準備運動がありますよね。ただ体操をやるのではなくて、そこで遊ぶと、そこでその段階で遊ぶことによって、どういう遊びをすれば準備運動の代わりができていくか、そしてどういう遊びをすれば社会性が育つのかっていうようなことを、岐阜協立大学で担当している教員がおまして、アクティブチャイルドプログラムというんですけれども、そういう教員を招きながら小学校とそれから保育園で進めていきたいと思っております。子供たちが楽しく遊んで、積極的に体を動かして遊びを通した中でルールを身につけ、社会性を育成していくことに取り組んでいきたいと思っております。いわゆる発達に関する困り感を抱えた方がお見えになるというようなことがありますので、専門的な知識を要する、いわゆる検査ができるというような資格を持った支援員を配置する予定でございます。小学校とそれから保育園も回っていきながら困り感を早めから把握しながら小学校につなげていきたい。作業療法士の方が子供の運動の様子を見てアドバイスをいただきながら、児童生徒の健全な育成を図っていくというようなことで進めていこうと思っています。Bは再掲

です。Cは教育環境で進めていきたいと思っています。

(委員長)

何かご意見はありますか？冒頭の地域のミーティングでのご意見の中に、特別支援の学級の話があって確かに増えているんですね。比率的に増えているところがあって、特別支援学校のクラスも増やしていくという話もありますが、その辺はどう考えてみえますか。

(教育長)

ニーズがある子達は保育園から小学校へあがる時に委員会を開かせていただいて、その子の様子をいろいろ報告していただいて、専門家の方も含めながら検討させていただいております。宮地小学校では、小さいので特別支援学級が設置できません。ですので、他の学校に通ってもらっています。言語に関する通級というような形ですね、言葉の問題を抱えている子についても、教員が今は一校にしか配置できておりませんが、ある程度まとまってくると、そこから来るということも可能になるのではないかなと思っています。

(委員長)

多様なニーズに応えるという点と、文科省の基準で標準的なクラスにするというか、それで配置がされるので、分散してるとしっかりとした手当ができなくて、ある程度まとまるとニーズに合わせていけるということですね。いかがでしょう？

(委員)

3点申し上げたいことがあります。まず1点目が、子供たちが2クラスがいいよというような、またはもしくは今の現状が一番いいよと言う子たちもたくさんいるというようなアンケート調査だったんですけども、これ今現在の状態の意見でありまして、これから6年後、本当に子供の数が少なくなった時、その時の子供たちがどういう意見をもつかというのは、これまた多分このアンケートの結果とは違うんじゃないかなというのも、今思っておるところです。で、二つ目は、地域学校協働活動本部というのを小学校2つにしたら、設置したいねっていうようなお話だったんですけども、すごくいいなと思いつつもですね、先日、私立幼稚園連合会の会合がありまして、各園長先生らとお話をしてたんですけども、PTAの役員のみならずほとんどないと。自分の子供が行っている幼稚園や小学校のために動こうという保護者がほとんどいないのだから、PTAがどんどん解散してるというお話をお聞きました。一番の理由がですね、お父さんお母さん共働きで暇な方がいない。もうみんな仕事しちゃって、もう空き時間ないんですよ。学校がどう頑張ってもちょっと何ともならんというふうに、聞いててそう思いました。ですから、小学校2校になって、地域学校協働本部を立ち上げるのはすごく素敵なことだと思うんですけども果たしてやり手がたくさん見つかるかなと心配しておるところです。そして、最後にもう一つ申し上げたいのが、廃校の後の使い方をなんとかしようかっていう話になって、なんか資料館はどうやとか、そういうようなお話もして下さった保護者がいらっしゃるということなんですけど、今日持ってきました、皆さんにお見せしたいのがこの池田町史というこの資料なんです。皆さんご覧になって読んだことございますか？これは昭和53年に発行されて、池田町の歴史全て書いてあるんです。で、これで見ますと、今ここにいらっしゃる方も知らないことがいっぱい書いてあるんですよ。ぜひお願いしたいのが、例えばどっかの小学校や保育園さんが、残念ながら廃校廃園になったよという時に記録をしっかりと残していただきたいなと。こっちにあるのは池田中学校50周年の歩みという資料なんですけど、これも例えば池田中学校は昭和22年に開校して、そしてどんなお気持ちで、あの先生たちが頑張って、子供らのために一生懸命やってきたかとか、そういうこと

が詳細に書いてあって、本当に今の子供らが読んでも、こんな昔こんなやっただのってすごく勉強になると思うんですね。ちなみにこの池田町史ですけど、僕も読んでびっくりしたんですけど、皆さん、温知小学校をもちろんご存知ですよ。温知小学校は一度火事で全焼しているのをご存じですかね、これ僕は知らなくてびっくりしました。明治8年に設立されて、明治23年に火事です。なんで全焼したかと言ったら、濃尾大地震で。温知小学校がまた建設されるまでに3年間かかっているんです。では、その3年間の間、子供らどこで勉強したんやといたら、ここに書いてあるのが池田町池野の東西寺って書いてあるんですよ。僕は東西寺の住職ですが僕が知らなかったというような、細かいことまで書いてあつたりします。将来の子供たちが、自分のお父さんお母さんが卒業したもう今はない小学校はどんな学校かなと思った時に資料をしっかりと残してあれば、ああそうか、うちのお父さんこういう小学校で一生懸命勉強したんやとか、そういうことが分かりますんでね。どうか資料の方もしっかりと残していただきたいなと心から思います。

(委員)

愛される池田町を作るという意味で、郷土の学習だとかいろいろ書いてあるんですけども、子供さんにとって、楽しいがついてこないとかかわないと思うんですね。子供が中心になるような意見を取り入れる場所は絶対作るべきだなと思ってのんです。深掘りが結局その愛着につながるんであって、例えば現実を深める。例えば、近所のお菓子屋さんとか、このお寺に行ったらみかんがもらえるよだとか、そういうものをお子さんが中心になって、街のマップを作っていく。例えばそのマップを6年生が作ったら、次の5年生が6年生になった時にこの商店街どうなったんだろうとかってというような、次につなげていくような子供が主体性を持ってというような仕組みを作らないと。やっぱり教科書がね、まあ正直僕もそうなんですけども、覚えてないんですよ。で、結局覚えていないのは心が覚えてないからであって、やっぱり子供が一番楽しいのは楽しいなって。まあ、そのあたりを極めてほしい。やっぱり池田町に戻ってきてほしいってことを考えた時に、どうしても仕事だとかいろいろな設備だとかで、他の地域に勝てる見込みはほとんどないと思うんです。そうなった時に池田町に戻ってきてもらえるような、オンラインのもっと上手な使い方とかですね。基本企業はね、都会にあるので、池田町の環境が好きなんだけど、仕事は池田町でもできるってというような。あと池田町であっても、世界中の子供達につなげられるように、例えば24時間常に海外の子供と喋れるようなズームかなんかでずっと海外の異文化と喋れて。で、当然、イタリアの子が地方のことを喋って当然池田町ってどんな場所なの？とか、海外の人とか、東京の子でもいいんだけど、他の外部から池田町のことを調べざるを得ないような環境づくりをするだとか。色々できるんだけど、その子供が楽しく自発的にできるっていうところを中心にやってほしいです。さっきの地域学校共同本部も含めて。だから、学生さんをしっかり入れる。毎年毎年その学年の何人かの子が、その本部に行って楽しい行事を作る。給食みたいなものです。食べたいものを自分たちで考えて作ってもらう。そうすると食に興味を持つ。

(委員)

学校のあり方として検討を通して考える時に、宮地小学校区の意見を聞いていると、無くなるという雰囲気があるため、住民からは何とか残してほしいという声を聞きます。小規模特認校というお話もありますが、期待できないかなというところがあり、豊田の事例などでお話されましたけど、部分的に使うとか、時間とか特別支援学級とかという話もありますけれども、他に何か良い方法はないのでしょうか？地域との関わりという中で、公民館の話があるのですが、上石津の事例を紹介されました。廃校舎の取り扱いな

んかは地域としては活性化に繋がるような事例として紹介されたのですが、公民館との関わりについては、教育委員会の学校のあり方委員会からは離れるかと思うのですが、担当されるのはどこになるのか、同時に進めた方が良いかと思えます。

(教育長)

ありがとうございます。公民館も私の管轄になりまして、社会教育のほうも私の管轄です。公民館長の会議が数回ございますので、次の回ではこういう話になっているということをお伝えし、議論をさせていただきたいと思えます。宮地のロケーションは素晴らしいので、それを公立学校の形で残していくのか、それともまた違うような形で、自然体験などができるような場所として何かできないかということを考えなければいけないと思えます。池田山麓のところを地域創生の一環としていくということで、外部の力をお借りするなど色々なことも考えられるかと思えます。今後計画という形で進めてまいりますので、その中でご意見をいただいきたいと思えます。

(委員)

今日ご説明があったところの、あり方ミーティングの中に温知小学校の報告がありまして、その中段ぐらいに「この検討会の委員に、「市立」保育園園長が入っているのはなぜか」という意見があるんですけど、おそらく「私立」のことですよね。そうすると、私のことだなということなのですが、私もですね、本当にここに座っていていいのかなということは思ひまして、本当に今日後半で説明がありましたけれども、保育園の再編につきましては当事者になりますので、実際に私がいることで他の方の委員さんの意見に支障が出るのじゃないかなってようなことも思ひながら出ているわけですけども、言い訳のようになりますけれども、建物とか運営が民間なだけであって、その制度については国の制度そのものを行っておりますし、半分公的な意味合いがありますので、その点をご理解をいただいてこの論議に加わらせていただければという思ひももっております。片山保育園の民営化の時には、癒着じゃないかというふうに怒られたこともあったのですが、そんなつもりはまるでなくて、この地域の課題に何とか取り組めたらという思ひでやっておりますので。そういうふうな思ひでおりますということをですね、お伝えしたいなというところですよ。それから、今日資料に出されました保育園のあり方の件ですけども、本当に事務局の方で苦労いただいて作っていただいているなということも思ひます。民間の方は一旦、民の方に任せていただいているような形になっておりますけれども、当然この池田町で今申しましたように、この国の保育制度の中でやっていくということが基本にはありますので、我々もそのいつまでも今と同じようにやっていけるというつもりではおりませんし、この池田町の子供たちの就学前のあり方について、本当に大きな責任を持っていると思ひしておりますので、公立への統合のことも含めてですね、この民間のこども園についてもいろいろとご意見をいただきながら、まっすぐでいたいというふうに思ひしております。ずっとこの先に行きますとですね。おそらくもう、民間の園でさえもできない状況が来るということも思ひます。その時も多少こう見据えながらですね、進んでいく必要があらうかと思ひしております。それから資料3のところにも関係するんですけども、幼保小の連携が進んでいきまして、本当にこの架け橋プログラムの紹介もありましたけれど、今、教育長様を中心に連携の取り組みを進めるように、具体的に進めるようにということで、色々なアプローチをしてくださっていることに本当にありがたいなと思ひています。一つはですね、小学校に入る前の就学前の子供達とそれから小学校に入ってからの子供達の教育っていうのは、同じ教育ではありますけれども、やっぱり手法とかですね、考え方というか国の制度上でもやっぱりその目的がはっきりしてあるというようにその趣旨が違う部分もありますので、そこは連携を取って幼保小の連

携が交流行事に終始してしまわないようにということを思いながら、プログラム作りに関わりたいというふうに思っております。本当に必要なことがどういうことなのか。例えば保育園から小学校へ入学にギャップを感じている子供達がですね、交流事業も苦手なんですよね。交流事業のようなこう賑やかなところも苦手だったりするような子の入学時のギャップをどういうふうに解消していくかっていうことも、一方では大きな課題ですので、そういったところに焦点が当たる架け橋プログラムであるといいなというふうに思っております。地域への愛情といいますか、そういったところが、論点に上がっておりますけれども、九州のですね、大分県の臼杵市長さんのお話をお聞きした時にですね、市長さんのお仕事としては、子どもたちにその飛び立つ翼を準備することが自分の仕事だと思ってるっていうふうに仰るのを聞いて、すごく感動したことがあったんですけども、やっぱりどうしてもここに留まってくれというものではなくて大きく飛び立つ翼をここで準備するということで、最終的にはまた帰ってきてくれる可能性があるという意気込みですね、地元愛っていうところを伝えていけるような政策になっていくといいなというふうに思います。ともかく施策と財源というのは本当にバランスが大事なところもありますので、前にも申しましたけど豊かに小さくなっていくっていうようなところはあまりマイナスと捉えずにですね、豊かに小さくなっていく方法を、みんなで知恵を絞り出すっていう取り組みではないかというふうに思っております。

(委員)

いろんな話を伺わせていただいて、これからある程度の方向性が決まってく中で、これから議会としても問題がふられると思っております。そうした中で今鷹橋園長先生がお話した保育園の関係にしても、学校もそうですけど、公ばかりの話のまとまり方の話での、やはり今の民営化の話もやっぱ今高橋先生がおっしゃったように子供が減ってく中で経営も偉いかもしれませんが、やはり民営の方向もあるかなということも考えられます。大野町にしても児童クラブやですかね。児童クラブでも民間委託をするような方向になったり、人材がなかなか難しいから、やはり民間という方向に進んでいくとは思んですけど。なかなかそんなわけにはいきませんが。だけど、校長先生にしても民間の校長先生がなられたりとか、いろんな方向性はあると思います。そしてやっぱ今宮地の方がすごい焦点になってるようなことがあると思います。歴史とか、そういうことがこの今のご時世で通用しなくなってきているのがやっぱ実際かなという、現実を見るとそうじゃないかなということがありますので、今日いろんなこの3回目ですけど、その着地点はもう2校になっててという話なんですけど。話が来年はこうやりますとかいろんなことが話が出てきて、あまりはっきり見えてこないっていうか。多岐にわたっているような方向性の話が出るともんですから。僕だけがそう思ってるのかもしれませんが。本当にこんで2校で良いのか？新たないろんな問題には展開していかなくやいけないと思うんですけど、いろいろ話が出過ぎちゃって。地域のアンケートもそうですけど、いろんな先々の話がで過ぎて、なかなかみんながどうやってこう着地をして行くのかっていうのはちょっと見えにくい部分がありますんで。着地点はもうちょっとはっきりしてもらった方がいいのかなという事は思います。

(委員長)

資料2の、再掲いただいているところ、ご確認いただいた方がいいと思います。つまり、前回基本方針を示していただいて、その基本方針全体について異論があるわけではなくて、それで進めていくという方向性だと思うんですが。

(教育長)

今年度これで4回終わりましたけれども、次回ですね、今までの議論をずっと総まとめした形の中

間報告みたいな形で、それぞれ答申というか町長に報告するようなものを作ってお出します。それでこういうふうなことで学校を考えて、基本的な考え方はこうなんだっていうこと。このたたき台に基づいて議論いただいたものについて中間報告というような形でいわゆる答申の案を6月には一度出させていただきますので、そこの中で議論いただければと思います。ただですね、このあり方の検討委員会を受けて答申をもらったところで、今度教育委員会は何やるかって言ったら、この次の計画を立てていくことになります。何年度までにどこをどうしてどういうふうにしていくというところは、それはそれをいただいてから、財政的な問題だとか、本当にそれやっていけるのかっていうようなことがそこに入ってくるかと思います。

(委員長)

最終的には教育委員会の事項なんですよね。学校の配置というのは。それで、これは町長さんから諮問を受けてどうでしょう？ということで、お集まりいただいて、皆さんの意見を集約して、まとめるという形でまとめさせていただくというところで、令和13年度に2校にしていくと。複式学級はもちろんなくし、できれば2,3クラスでクラス替えが可能な範囲で、編成をしていくというのは柱ですよ。それを教育的な観点からこの会議としての話を進めていくという点では、そこが必要だということで。今後のお子さんの数であるとかの状況から、それがふさわしいと答申していただきたいということで進めてきておりますので、そうのご理解をいただければということです。

(委員)

委員の方からいろいろお話がありました。私は逆に事務局もしくは委員長さんからこの多種多様な視点と、それからご意見を聞いた中で、最終的に取りまとめを方向性を出していただきたいなと思うように思っています。ここには小学校の先生方、こども園の先生、公立の先生、私立の先生方もいらっしゃいます。いろんな方がいらっしゃいます。地域の方々もいらっしゃいます。そういう中で意見を違う視点の中でご意見をたわまって教育委員会の方でまた議会の方で揉んでいきたいというふうにも思っておりますので多種多様でいただきたいと思っています。

(委員長)

今日の資料でちょっと思ったんですけれども、冒頭申し上げましたけれども異論しか書かれてないんですね。これだとですね、どのミーティングも紛糾したかのような資料に仕上がってしまっているの、伺った時にはそういう雰囲気ではなかったというふうにも聞いておりますので、そうではなくて、概ね、基本方針が先ほどちょっと述べさせていただいたような考え方で、基本方針ができて、それについて説明して概ね了解はいただいたけれども、こういう異論があってその異論それぞれについては、いや、そうではないんだというふうに言えるものには議論し、受け取るものについては受け取っていくという形で整理をいただくというのが、最終答申をまとめるためには必要なかなというふうにも思います。小規模特認校のご意見もあったけれども、それが池田町の現実にてらして、実際はやっていけるものなのか？どうであるかとか、様々こんなことはないのかできないのかっていうことについて頂戴したご意見について、事務局として、これは受けるけれども、これは受けれないという形でしっかりまとめていただいて次の会議で取りまとめ案という形でお示しいただければと思います。

(教育長)

途中、何件か出てまいりましたけれども、保護者の方と地域の方は、やはりいろいろ思いが違いますので色々やってみたんですけれど、保護者の方にお集まりいただいてご意見くださいってね、やはり子供さんがおみえになりますので、なかなか難しいところが分かってきて、インターネットを使った方がいいよ

って保護者の方とかで言われました。この会議でのご議論のものとそれから資料も出させていただいて、それは全員の保護者さんに、ここにありますからってことをやっでご意見をぜひお願いしたいというかたちで、保護者さんのご意見も聞かせていただきたいと思います。それと、やはり地域の方々では今までのずっとの歴史がまず百五十年の歴史がございますので、いろいろな納得しただけない部分があるかと思しますので、それについてはいろんな会議を開いていただければ、私どもは参りまして、今ここにあるような方針について説明させていただきたいと。今日区長さん方お見えですので、ぜひそういう会を設けていただければ、ありがたいなっていうふうに思います。小学校も実は明日明後日から授業参観の前に一度集まっていたら、そこで説明会を開くということもさせていただいております。まだこれからちよっといろいろ多方面から、それこそご意見をいただきながら、中間の案は6月のところで一度お示しをさせていただきますので、それを見ていただいて、またご意見いただければと思います。

(委員)

最後にこんなこと言って。私はこの池田町のあり方委員会に出て、それから揖斐川町のあり方委員会の方にも出席させてもらってるんですけど、実質的に池田町のタイムスケジュール的にはどんどん進んでるんですけど、揖斐川町は全く進んでないんですよ。協議をされてからやっていくってことなんですけども。池田町は池田町で養基地区の話、揖斐川町は揖斐川町脛永地区の話で別々の話になってしまって地区の人にはどちらが正しいか分からない。脛永地区の保護者は池田町の考え方が全く分からないんですよ。データはもらってるけど、それを読んだって池田町の実質的な考え方は分からないんですよ。池田町のほうも養基小学校脛永地区のことは分からないと思うんですよ。両方の考えを両方の教育長が例えば脛永の方へ来ていただいて、保護者に対して池田町はこうですよ、揖斐川はこうですよと説明していただかないと。池田町ばかり進んでも脛永地区は何も分からないんですよ。それは考えていただきたいなと思います。

(委員)

養基地区は宿命的なもの。組合方式というものは、先代達が郡村合併について議会議決で決めた。学校をどうするかということも。経済的に養基小のお金は按分で運営していくのがずっと続いてきた。養基小の教育は、池田町の教育長が兼務するということは議会で承認している。これは議会でないと議論できない。養基小組合の教育長として説明に行くことは不可能では無いと思う。住民も、何故そういう状態なのかということを知らないと、意見だけ言われてもシステムが全然違う。教育長は苦しいところもあると思う。行政が違うということと全く一緒ですから。

(教育長)

昨日も揖斐川町の教育長と打ち合わせをしておりますけれども、3月に議会もありますので、そこで両方どもの途中経過を説明させていただきますし、今ご提案いただいたように、地元の方にですね、そういう機会があれば、こちらの方から、どういう立場でいかあれですけれども、行きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

全国で非常に珍しい組合立なので、特別な手当をしていただくというのは必要だと思いますが、よろしいでしょうか？ だいぶ時間もきてご意見も頂戴できたかと思えます。確認として基本の線ですね、前回の会議でお示しいただいた基本的な方向性について、ご意見を伺ってきた結果を踏まえて、最終のとりま

とめを、6月というようなカレンダー的なことも言われましたけれども、次回の会議の時にはお示しいただいて、それをこの会議としての提案ということで。最終ではなくても中間まとめ的にはですね、次回のところでまとめていけるかというふうに思いますので、そういった形でご準備をいただければというふうに思います。今日の議事は以上とさせていただきますので、あと事務局にお願いいたします。

(事務局)

4 その他について何かあればお願いします。

5 閉会

(事務局)

それでは第4回の池田町学校あり方検討委員会を終了させていただきます。委員の皆さま、本日はありがとうございました。